

会 議 録

会 議 の 名 称	第5回鴻巣行田北本環境資源組合新施設建設等検討委員会
開 催 日 時	平成31年1月28日(月) 開会：午後3時00分 閉会：午後4時00分
開 催 場 所	鴻巣市立教育支援センター東館 会議室
出席者(委員)氏名 ◎委員長 ○職務代理者	横山光市、小暮福三、田島和生、◎安登利幸、佐久間康弘、 ○田中一幸、阿部慎也、梁瀬里司、金子真理子、原 光本、 川島将史、荒井康博、原口春雄、黒沼昭征、松本芳雄、松本幾夫 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員)氏名	
事務局出席者	鴻巣行田北本環境資源組合：瀬山事務局長 計画建設課：佐野課長 山崎主幹 小松主査 北條主査
組 合 構 成 市 出 席 者	鴻巣市：飯塚環境経済部長、馬橋環境経済副部長、小林環境課長 行田市：小巻環境経済部長、前島環境課長 北本市：新井市民生活部長、加藤環境課長
会 議 内 容	1 開 会 2 あいさつ 3 議題 (1) 今後の協議内容について (2) その他 4 閉会

<p>会 議 資 料</p>	<p>(資料名・概要等)</p> <p>資料 1 検討委員会の今後のスケジュール</p> <p>資料 2 余熱利用施設整備に係るサウンディング調査及び参入意向調査業務について</p>	
<p>その他必要事項</p>	<p>1 傍聴人 11人</p>	
<p>会議録の確定</p>	<p>確定年月日</p>	<p>主宰者署名押印</p>
	<p>平成31年3月31日</p>	<p>安登利幸 ㊟</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
議長	<p>・開会</p> <p>・委員長あいさつ</p> <p>暫時、議長として議事の進行を務めさせていただく。議事進行にあたり、皆様のご協力をお願いしたい。</p> <p>本日の会議は公開で行うので、よろしく願います。</p> <p style="text-align: center;">【傍聴人入室】</p>
議長	<p>傍聴人の方に申し上げる。傍聴証の裏面に、傍聴人に関する遵守事項があるので、ご協力をお願いする。</p> <p>それでは、3の議題に入る。</p>
	<p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">議題（1）今後の協議内容について</p>
議長	<p>議題の「今後の協議内容について」、事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">事務局説明</p>
議長	<p>この件について、何か意見や質問はあるか。</p>
委員A	<p>11月に延期となったわけだが、今まで他所の地域の例を参考にしていたとの事だが、今後はこの3市でやるわけだから、3市にそぐう施設を造ってもらいたい。16年前に中部環境の計画が出ていたわけだが具体的なものがなかったので撤回となった。今回は専門的な方と調査をすると思うが、ぜひガラス張りでやってもらいたい。なぜ、郷地に建設地になったかといえ、鴻巣のはずれではこの予定地しか場所はないという事で取り組んでいる。市民としては、ぜひ建設してほしいと思っている。鴻巣、行田、北本3市で構成しているが、鴻巣の自治会で反対している人はいない。ほとんど造ってくれという意見である。3つの地域でやっているのだから、反対ではなくて前向きな意見を言ってほしい。</p>
事務局A	<p>今までは近隣の事例から平均して出していた値になる。今回の調査では、建設予定地に対する調査をさせていただく。より精度を上げた状態に出せると思う。結果については、次回の検討委員会でお出しし</p>

て、評価、検討していきたい。

議長

専門的な立場から調査項目について何かご意見あるか。

委員B

先ほど事務局から地理的に、より具体的に民間の立場からの調査は客観性の観点からも大事な視点ではないかと思う。ここにある立地エリアのポテンシャル分析と参入する業者がどのようにニーズがあるのかなど広く論点をだして分析、検討していく、反映していくといったプロセスが適切ではないかと思う。

委員C

この問題は、鴻巣、北本、吉見と長く携わっている。前の鴻巣、北本、吉見の時は大変な問題が起きて今日までやってきている。私達市民は、当時は30代であったが鴻巣、北本、吉見で焼却施設ができて、結果的には市民一人ひとりが焼却炉は造ってほしいと思うが、色々な問題がある。公害などあるがこの時代においては真剣に焼却炉がほしいと思っている。化学的な問題も検討してきて、議論も重ねてきて、それでもし今回延期となれば市民にとって恥ずかしい検討委員会になってしまう。色々な問題は済んだこととしてきている。温浴施設も進めていきたい。一つひとつの問題をあげても大変なことで、利益を考えても利益はないかもしれない。皆さんの税金を正しく使って、若い人のためにしっかりとしたものを作らなければいけない時に来ていると思う。最悪な話で、もしこれができなかつたら他の所に行ける問題ではないので真剣に考えて、皆さんも正しい決断をしていただいてスムーズに先に進めて行ければと思っている。これは切に市民を代表してお願いする次第である。どうぞよろしく願いしたい。

委員D

すべて概算でだしたとの事である。私もまさにその通りだと思う。この検討委員会は温浴施設を検討するものであって、ごみ処理施設を造ることについてはぜひ一日も早く造ってほしいと考えている人間の一人である。今回の温浴施設については、多分に華美な部分が多すぎると考えている。私も色々なところを調査しているが、もちろん利益の上がっている所はほとんどない。どれだけ集客ができるかというなかで17万人という話もでてきた。本当に17万人が利用してくれ

るのか。利用してくれるのであれば、これだけの施設が必要であろうと思う。もっとしっかりと市場調査を行い、建設に向けた検討をどんどん掘り下げて検討していくべきである。9月に答申となるがしっかりと検討していきたいと思う。

事務局 A

今までは近隣事例や参考文献をもとにしたものであったが、今回の調査については、しっかりとこの地域、予定地にあった商圈分析を行い、数値としてお出しできる形をとっていきたい。

委員 E

委員 A からいい意見を出していただき、その点について異論はない。最初から申し上げたとおり、地元とすれば、何か地元でそういった温浴施設か何かを造ってほしいということで、地元で焼却場が来ることについては、一部では反対運動しようという声もあったが、なだめてきた。我々、農業も田んぼも作っているし、昨日も水路管理をやった。最初、我々とすれば、焼却場ができれば、何か地元の道路もよくなるし、水路もよくなるし、そういうものができるじゃないか、といった期待のもとに、なんとか、焼却場を造ってもらうことについて、地元をなだめてきた。だんだんそれが、広い道路ができます、水路も1本だけ組合で造ってもらいます、あとの水路は、要望したけれども、全部鴻巣市がやるということで、後退してきた。我々も市にお願いして早くやってもらいたいが、予算とか、しまいには多面的機能支払制度があるのだから、それを利用してなるべくやってもらいたいと言われている。焼却場ができるので、うちの田んぼもよくなるとは思いますが、何年後かわからなくなった。そのようななかで、唯一、温浴施設を造ってもらうということで、検討委員会の中でも最終的に意見がまとまってきた。地震や台風、水害があると、郷地安養寺地区は笠原公民館まで行くのはちょっと離れているので、緊急の避難場所として、そこが利用できないか、という希望も持っている。今は集客とか17万人とか言っているが、我々はそういう問題だけで変な施設を造られては困る。なんとか各市の協力をお願いして、立派なものを造ってほしい。それが地元としての意見なので、皆様のご協力をお願いした

い。

委員 F

この検討委員会は、温浴施設を造ることが前提ということで、私も1回目に質問したと思う。これから、サウンディング調査という、具体的な市場調査、参入する業者について具体的に調査していくということだが、もし、結果的に参入業者がいないような状態や、市場調査の結果、黒字にはならないというようなことが出た時には、再検討をすることはあるのか。委員会としては造るのが前提なので、そのことについての確認ということもある。また、黒字にならない時に、赤字でも何が何でも造るのか、という判断を知りたい。鴻巣市の地元には大変お世話になるが、3市の市民が使えるような施設というのは、ちょっと難しいと思っている。今後検討して、行田や北本のみなさんが喜んでもらえる施設になればいいと思っているが、そのようにならなかった場合には、どのようにしていくのか、という検討はできるのか。

事務局 A

今回の調査に関しては、(2) サウンディング調査で、ア～カの項目を検討している。こちらについては、民間事業者に、組合の計画を説明した上で、運営できるか。運営意向がある場合、懸案事項や要望があるか、オとカについては、参入意向がない場合は、その判断を下した理由、例えば行政側に要望がある、条件が必要等の調査をかけるものである。サウンディング調査については、こういった調査を踏まえて、計画段階からそういった要望を取り込んでいくことで、より実現性の高い、精度があがった状態で、入札に踏み込んでいける調査になっている。今回調査した結果について、事業者の提案や要望が出てきた場合、その要望を反映させた場合に、参入意向が上がる可能性がある等、それについては検討委員会で審議いただき、より市場の動向にあった形で、この事業の実現性を上げていく必要があると考えている。逆に、ハード面やソフト面でマイナスが考えられる場合は、その点についても委員会で考えていければいいと考えている。

3市が使える施設ということについても、調査の中での民間事業者からの提案を踏まえながら、皆様に使っていただけるような商圈を絞

り込むなど、その点に注意しながら、調査していく。

委員 G

スケジュール案として示されているが、予算が確保できたらということ、3月で補正をとるのか、当初予算で上がってくるのかがまず1つ。それから、入札になると思うが、この業者まかせで調査を進めていって、結果を6月末から7月に返してきて、検討委員会でもんで、ということで、調査の結果というところで、要望などは5月、6月でまとめてやりとりするという形になるのか。やりとりをするところは計画建設課とサウンディング調査を委託された業者というところで行われていくのか。

事務局 A

予算に関しては、2月の組合議会で債務負担行為の補正として取らせていただき、新年度予算での支出になる予定である。債務負担行為の補正を行った場合には、今年度中に契約をし、概ね4月から調査に入り、サウンディング調査については3か月程度で結果が出ることから、結果がでたものを第6回検討委員会を出していく予定である。サウンディング調査については、様々な手法があるが、今回はコンサルタントに依頼し、特に参入意向については、温浴施設を現在運営している事業者を抽出し、直接その事業者とやりとりしていく中で、意見の集約に努めてまいりたい。要望については、まとめた報告書を作成するので、それを検討委員会に諮っていく中で、計画建設課、コンサルタント、業者だけということではなくて、皆様に広く公開した上で、審議をしていきたいと考えている。

委員 G

調査の結果出てきたものを検討委員会でもんで答申につなげるというところで、温浴施設の設計等はDBO方式だから、業者を募集する中で、決定していくという形になる。大きい施設だと、仕様書をこちらから提示して、それによって設計が行われてくると思うが、それはどこがやる形になるのか。このスケジュールからでは見えてこない。今回のサウンディング調査というものは、相当重たいものになってくるかと思うが、いかがか。

事務局 A

こちらについては、答申を31年9月に出す中で、整備方針として、

こういった施設を造りますという方向性を決めさせていただく。それに基づいて、先ほどご説明したとおり、あくまで参考になるが、32年から事業者選定業務に入りたいと考えている。そこでは、現在検討委員会の中で審議していただいているが、今度は事業者選定委員会ということで、同様に仕様書の検討や要求水準書の作成にあたり、委員の皆さんの中で審議していただいて、ある程度の仕様書を固めることになると思う。今回の調査で、民間事業者の意向を反映させていきたいと考えているので、それが達成できるような形で仕様書の作りこみをしていきたいと考えている。

委員 G

第6回検討委員会に、調査結果が示せるということだが、調査されたものが有効に活用されるような形をとっていかねばいけないので、その辺の日程が忙しいように思うが、もう少しゆとりをもってすすめていけるとよい。

事務局 A

資料は第6回、第7回で調査結果を反映したものをお出しできるように考えている。

委員 D

サウンディング調査だが、今まで聞いてきた施設規模をベースにして、市場調査をするようだが、あくまで案だが、パターンを3つくらいに分けて行ったほうがよいと思う。現在予定されている施設規模のものと、それよりも下回るもの、という3つくらいのパターンを、事業規模、財政規模でいえば、約12億かかるという今回の提案の中で、その金額をもう少し圧縮したものを3つくらい提示して、市場調査したらいいのではないかと思う。というのは、まず最初に12億ありきでもって調査をするよりも、私は、このくらいの規模が適正ではないか、というような提案が、もしかすると逆に出てくるのではないかと思う。その辺のところは事務局として、どう考えているか。

事務局 A

今回の調査については、資料2(1)立地エリアのポテンシャル分析の中で、①②で立地診断調査ということで、温浴施設、温浴部門、飲食部門、その他の部門で、それぞれ商圈を分析し、それに基づいて施設のコンセプトの再検討、もしくは店舗のゾーニングやレイアウト

等も再構築する予定となっている。今回調査する内容については、あくまで、検討委員会でこういった検討がされている、という施設規模や金額等を示して、それが民間事業者の現在の市場分析とあっているのか、ということをもう一度見直すので、この金額でどうか、と示すよりは、現在検討している内容を再調査するという目的もあるので、そこから施設規模や概算事業費を再計算する予定となっている。

議長

弾力的な形で施設内容や規模を検討していただきたい。

委員H

スケジュールについて伺う。資料1は温浴施設建設のスケジュールだと思うが、今回のサウンディング調査の中に、ごみ処理施設本体に求める条件が調査項目の中に入っているが、このようにしてほしいという条件が出てきた場合、本体の事業者選定にも関わってくると思うので、その辺りはうまくフィードバックできる予定になっているのか。

事務局A

ごみ処理施設本体のスケジュールは載せていないが、31年度には、事業者選定の入札業務に入る。9月に実施方針の公表、32年3月に入札公告する予定となっている。このことから、来年度中には、事業者選定委員会の中で、余熱利用施設も含めて、ある程度のユーティリティ条件が決まったものを示す必要がある。そのために、今回お出ししたスケジュールにある31年9月に答申をいただくということは、かなりギリギリのスケジュールとなっている。余熱利用施設はこういうものが必要という条件を出すのは、期限ギリギリなので、ごみ処理本体の仕様にも間に合うように検討していきたいと考えている。

議長

様々な意見をいただいた。各委員からご指摘のあったご意見等を踏まえて、それをもとに引き続き事務局ですすめていくということで了解をいただいた、ということによろしいか。

(了承)

事務局においては、サウンディング調査をすすめていただき、7月には報告していただきたい。調査結果がまとまり次第、次回の検討委

員会を開催する。

議題（２）その他について、事務局から何かあるか。

その他

事務局

事務連絡

委員A

今から7月まででは、それほど時間はないが、事務局には、折衝する相手に対して、不可欠のないようにしてもらいたい。私も吉見町で怒った理由は、中身を鴻巣市、北本市、吉見町でやるといったら、東秩父村や長瀨町、嵐山町、ときがわ町等からも運んでくるということになった。そこから運んでくることに対して、どうやるのか聞いたら、みんな平等にやるとのこと。私が心配しているのは、私たちがなるほど、と思えるものを出してもらいたい。特に、どういう方と接触をもつかわからないが、ガラス張りでやってもらいたい。特に、鴻巣市議会で、びっくりしたことは、けんか腰で質問している議員がいた。話し合いをするのであったら、ゆるやかに、対話と協調でやってもらいたい。そうすることで初めていいものができるので、重箱の隅をつつくようなことはしないでもらいたい。7月にいい案をもってきていただきたい。

委員G

今日は温浴施設についての話だが、さきほど委員Eから、水路整備の話が出て、私も議会の中で、一番の地元の要望は水の処理ではないかと。後背湿地という低い土地で水が集まってきて今でも水の問題を抱えているところで、新たな施設ができて、さらに心配していると聞いている。このことについて、どこかで話し合っていていただき、周辺整備はどこが負担するかの案はあるが、実際のところ、使用する施設が安全でなければならないので、水の問題はたいへん大きいと思う。検討委員会で検討すべき内容かどうかについては、諮問されないといけないことだが、どこかできちんと方針を出す必要があるかと思うので、最低限、検討委員会でそういうことを上申することは大切と考えるので、ぜひ検討いただきたい。

事務局B

ごみ処理本体施設の整備については、事業者選定委員会で今後具体

的に議論していくことになる。本日のご意見も踏まえて、事業者選定委員会で詳細について詰めていきたい。

議長

以上で、本日の議事はすべて終了した。

議事進行について、ご協力いただき、感謝する。それでは会議の進行を司会に戻す。

閉会

事務局B

以上をもって、第5回鴻巣行田北本環境資源組合新施設建設等検討委員会を閉会とする。